

ハーキー通信



Vol. 2
2020.08

お待たせしました

ハーキーの皆様、大変お待たせしました、ハーキー通信2号です。

今年には会員手続きの更新連絡も進められないまま、時がたつてしまい、会員の皆様にはご心配をおかけしました。申し訳ございません。

当会からのお知らせを、今まで信じて待ってくださった皆様の深い愛に感謝します。今回はどうか、私の近況を少々お伝えさせていただきます。

2回の妊娠

昨年の12月、念願の第2子の妊娠を喜びながら、つわりと戦っていました。



しかし、8週で超早期の流産となりました。確かに命は芽生えたのですが、命を継続する力は持っていなかったベビちゃんでした。

通常とは違う身体の状態に

加え、出産以外で入院したこともない私が、初めて麻酔で眠る手術を経験し、一度は宿った命とお別れをするという、なかなか心穏やかでない日々を過ごしました。

12月の座談会では、この一連の経験をお話し、私の心のありのままを語ることができました。この1回で完全に乗り越えた！とはもちろんいきませんが、話を聴いてもらえたことで、その時の背負っていた気持ちや心の不安定さからは、一つ区切りをつけることができましたのは確かです。

改めて、生きづらさはどこにでも、どんな人にも、いろんな形で抱えることを実感するとともに、安心して語れる・聴いてもらえる座談会の価値を再認識しました。

その後、冬も終わりを迎えるころ。私の気持ちも身体も平常モードへと変化してきて、妊娠を再開し、すぐに3回目

喜ばしいのはもちろんのこと。しかし、妊娠はつわりとともに発覚します。春からはつわりとの共存が始まりました。

社会も変わった

時期を同じくして、新型コロナウイルスが登場し、社会は経験したことのない非常事態となりました。

今まで当たり前前にできたことができなくなり、社会全体が自分の都合だけではどうにもならない、先の見えない生きづらさを抱えるという経験をすることになったわけですね。

当会では、座談会と周年行事の中止を判断しました。6月からは、高木理事長宅の「あひるの子」に会場を移し、定員5名、感染対策を施しての開催をしています。

社会全体が混乱していた状況は、数か月たち少し落ち着いてきました。完全に今までの通りの暮らしに戻るといえるとはないでしょう。

こういった状況を経験したことで、自分はどうか、どう感じているかを考え、行動を選択する場面が増えているように感じます。



これまで、当会が伝えてきた「生きづらさとの共生」。まさに今の社会の歩み方ではないでしょうか。

環境、状況、価値観の違いを認め合い、変化への不安などはありながら、それでも前に進んでいく。そういった社会が、ハーキーが伝えたい「生きづらさがあっても前に進める社会をつくらう」という想いです。

当会の活動には、生きづらさのジャンル分けはありません。ゆえに、障害、就業、転職、親子仲死別、結婚、離婚、子育て、不登校、生き方、介護、お金、トラウマ、人間関係など、様々なキーワードの話題を扱っています。

今後も、明るい笑いで心を軽くし、背中を押すハーキーな関わり方を、活動を通じてお伝えしていきますね。

今年度の状況

大谷は、現在妊娠7か月(予定日・12月2日)。切迫早産の診断をうけ、できるだけ安静に過ごす日々です。指先でできる事務局活動を、身の丈マイペースさせていただいています。

座談会は、理事長が運営していますので、ご安心ください。